

授業科目名	生活の理解(2100116)		
時間割名	生活の理解(24105)		
時間割担当	善野八千子		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	火・4		

■授業の目標・概要

子どもの身近な社会環境である学校、家庭、地域社会における具体的な活動や体験を通して、子どもの社会認識の発達について、空間認識、社会的スキル、コミュニケーション・スキルなど多様な観点から考察する。小学校入門期である低学年では、自分のまわりの人々や社会や、季節の移り変わりといった自然環境の変化などに気づき、気づいたことを表現する力を身に付ける時期であると同時に、仲間と協同して活動に取り組み、学校での自己実現をはかる経験が求められる。生活にかかわる様々な実践活動から子どもの生活世界・内的世界を含めた具体的な姿を理解する。

■学習の到達目標

子どもを取り巻く環境の変化を調べたり、理解を深めたりする。また、体験活動の意義を知り、児童の発達にふさわしい生活のあり方を考察する。特に、幼児期から低学年への環境移行を考察し、適切な活動の構成及び評価方法、対話を通じた学びの深まりについて理解を深める。

■授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッション及び体験活動を行う。

■授業計画

第1回 オリエンテーション

授業の目的および内容説明、成績評価について説明をする。(栽培活動の実際：種まき)

第2回 第4章 栽培活動(栽培活動の実際：種採り)：達成感や成就感を感じさせる為の栽培方法の工夫について、理解する。

第3回 第1章生活科の内容構成と教材の特色：子どもを取り巻く昨今の社会情勢について知り、「小1プロブレム」に関連して、調べたことをまとめる。

第4回 第2章生活科誕生の経緯とこれまでの20年間と・今後の生活科：生活科新設の伴い求めようとしたことを理解する。

第5回 第11章スタートカリキュラム・第12章交流活動：スタートカリキュラム及び交流を通じた人間関係づくりの単元に於いて配慮すべき事遊びの意義を理解する。

第6回 第6章おもちゃづくりで育む科学的な見方、第13章豊かな言語活動
身近な道具や材料を使って遊びを創り、豊かな言語活動について考察する。

第7回 第6章おもちゃづくりで育む科学的な見方、第13章豊かな言語活動

身近な道具や材料を使って遊びを創り、豊かな言語活動について考察する。

第8回 第5章 動物飼育、第3章 四季の自然物を取り入れた遊びを考える。ネイチャーゲームやビンゴゲームを通して、具体的な効果は何かについて理解する。

第9回 第8章地域の探検：生活科で扱うお店と社会科で扱うお店の違いを説明する。

第10回 第9章通学路と安全：低学年児童の認識の内容に関連してその特色について理解する。

第11回 第10章公共物や公共施設：生活科のねらいとして公共物や公共施設を取りあげるねらいについて理解する。

第12回 第14章自己成長：成長への気付きの単元において、特に配慮すべきことについて、理解する。

第13回 第15章家族単元：家族単元について、特に他の単元と異なる点について理解する。

第14回 第16章理科・社会科と生活科：理科の学習内容と生活科で扱う自然事象との違いを理解する。

第15回 生活の理解のまとめと振り返り、これまで身につけた知識をもとにし、子どものより良い発達を支える生活について考察する。

■成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(40%)さらに学期末の振り返りレポートにおいて総合的な理解を確認する。(60%)

■準備学習・復習及び授

予習では、授業の事前にテキストを読んで用語や語句の理解を深め、要約をしておくこと。

復習では、授業後の振り返りレポートをまとめて提出すること。

■履修上のアドバイス及

体験活動をするので、植物アレルギーなど事前に申し出ること。各章の理解はパワーポイントでプレゼン発表するので、機器操作ができるようにしておくこと。

■教材・教科書

「教科力シリーズ 小学校生活」寺本潔編著・善野八千子(2016.玉川大学出版)

* 文部科学省編『小学校学習指導要領解説 生活編』、

* 小学校 生活科用 教科書 新編 新しい生活 上 下

* は、2年次「生活科指導法」でも継続使用

■参考書

参考書：授業中に指示する